

日本の実業家の伝統をつくった渋沢栄一

千葉県中学歴史教科書読み比べ会 オフィシャルサイト: <https://kyokasyoyokunare.jimdo.com/>

中学歴史教科書 読み比べ

令和元年
5月10日(金)
第8号

〈発行者〉
千葉県
中学歴史教科書
読み比べ会

〈連絡先電話〉
070-6941-1941



新紙幣の肖像画となった
(上) 渋沢栄一 1万円
(中) 津田梅子 5千円
(下) 北里柴三郎 千円

【はじめに】

平成三十一年四月九日、財務省は一万円、五千円、千円の紙幣（日本銀行券）を二〇年ぶりに刷新すると発表した。その新紙幣の肖像画には、一万円札が渋沢栄一、五千円札は津田梅子、千円札は北里柴三郎がそれぞれ用いられることとなった。肖像画の変更は、平成一六年以来のこととなる。尚、発行は令和六（二〇二四）年度上期となる予定だという。

この三人を選定したことにに関して、麻生太郎財務大臣は会見で、「新たな産業の育成、女性活躍、科学技術の発展など、現代にも通じる諸課題に尽力し、新元号のもとでの新しい日本銀行券にふさわしい人物だ」と述べた。

麻生大臣の言われた通り、「資本主義の父」と呼ばれた実業家の渋沢栄一、「津田塾大学」創始者の津田梅子、「近代日本医学の父」で医学博士の北里柴三郎、それぞれ現代につながる偉業を残された人物である。

今回の読み比べは、この中から渋沢栄一に焦点を当てて、中学歴史教科書各社の記述を見てゆく事としたい。

以下、東京書籍、教育出版、帝国書院、自由社の順に見てゆくことにする。

【東京書籍】

「富国強兵と文明開化」一六四頁欄外人物写真・説明

《渋沢栄一（一八四〇～一九三二）

富岡製糸場の建設をはじめ、多くの企業を設立し、経済の発展に力をつくしました。》

【教育出版】

「製糸業と紡績業の発展」一八四頁欄外側注

《実業家の渋沢栄一は、大阪紡績会社や札幌麦酒（ビール）会社など五〇〇に及ぶ企業の設立に関わり、近代産業の発展に力を尽くしました。》

【帝国書院】

「日本の軽工業の発展」一八四頁側注

《渋沢栄一（一八四〇～一九三二）明治から昭和にかけて活躍した実業家の渋沢は、秩父鉄道や東洋紡績など多くの企業の設立にたずさわりました。》

【自由社】

「日本の実業家の伝統をつくった渋沢栄一」

二〇四～二〇五頁コラム

◎少年期に培われた道徳心

渋沢栄一は、明治から大正にかけて日本の経済界の指導者として活躍した、偉大な実業家です。

渋沢栄一は、一八四〇（天保一一）年、武蔵国榛沢郡血洗島村（埼玉県深谷市）の農家に生まれました。六歳になると栄一は、学問の素養のあった父親から漢文の書物の素読を教わりました。

利発な栄一は、一年あまりで、中国の古典である孝経・小学・大学・中庸・論語を読み進みました。

八歳からは、漢学者に師事し、聖人・賢人の言行を記した多数の書物を学びました。渋沢の教養と道徳心の基礎は、少年期に培われました。

◎「株式会社」の発見

一八六四（元治元）年、渋沢は武士の身分を得て、のちに五代将軍となる徳川慶喜に仕えました。一八六七（慶応三）年、渋沢は幕府が派遣したパリ万国博覧会使節団の一員として、ヨーロッパにわたりました。使節団は、一年あまりにわたってフランス、オランダ、イギリスなどを視察しました。渋沢がその視察で、おどろきとともに発見したことの一つ

は、銀行家が陸軍将校と対等に会話をしていることでした。日本では、銀行家にあたる者は商人です。陸軍将校にあたる者は身分の高い武士です。武士のなかには金儲けを卑しいものと見、身分の高い武士は商人と同席することさえ憚る風潮がありました。渋沢はこれからの日本は、商人が誇りを持って商売するようにならなければいけないと思いました。

渋沢がヨーロッパで発見したもう一つは、株式会社でした。株式会社とは、民間からお金を集め、それを元手にして事業をするしくみです。一人から集める金額は少なくても、それがまとまれば大きな資金になります。株式会社は、国の産業をさかんにするとともに、人々の生活を豊かにします。渋沢は、いくつがこの株式会社を自らの手でつくりたいと思いました。

◎五〇〇の会社を創設

渋沢の肖像写真を見てください。西洋視察をする前の誇り高い武士・渋沢が、西洋視察中に心境の変化をおこし、近代的な実業家に生まれ変わるうと決心したことを象徴するような二枚の写真です。

渋沢は、「わが国が西欧諸国と対等の立場で交際していくには、国を富ますことが必要である。国を富ますには、商工業を近代化し、株式会社をつくらねばならない。その会社を経営する者は、商人としての誇りと、高い道徳心を持たねばならない」と考えました。一八七三（明治六）年、渋沢は第一国立銀行の創設にかかわり、そこで手腕を発揮し、やがて、東京ガス、帝国ホテル、キリンビールなど、約五〇〇もの株式会社創設や運営にかかわりました。

◎論語と算盤

渋沢は、実業家の仕事を、単なる金儲けとは考えませんでした。万物を生かしている天命を知り、人として信義を重んじる道徳心を実業家に求め、おりにふれて彼らに論語の教えを語りました。そのような実業家こそが、一身一家を繁栄させると同時に公益をもたらし、日本全体を豊かにすると言う考えからでした。

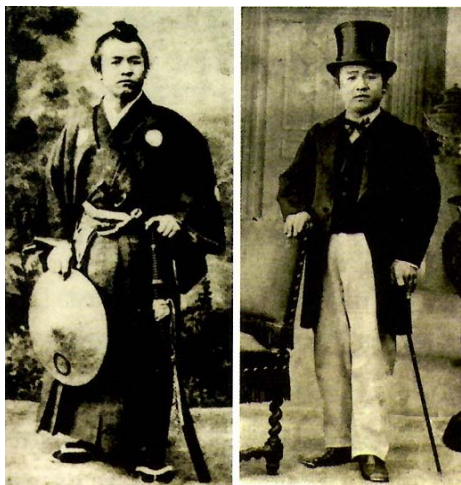
こうした渋沢の思想は、「論語と算盤」と言う言葉であらわされ、信用を大事にし、道徳（論語）と経済（算盤）を統一し、公共心を重んじる、日本の実業家の伝統がつけられました。

渋沢は、事業活動で生まれた富の一部を社会に還元すべきであると考え、世の中の弱者を救済する、日本で最初の公立施設・東京養育院をつくりました。慈善事業団体や病院づくり、商業学校への支援など、渋沢が設立にかかわった社会・教育団体は、六〇〇以上にのぼりました。》

東京書籍、教育出版、帝国書院の大手三社と自由社の記述の差は、質・量ともに圧倒的に異なっている。渋沢栄一は、明治昭和にかけて、我が国の産業の基礎を作った国家的英雄と言っても過言ではない。しかし、大手三社の記述では、大企業創始者程度の人物としてしか描かれていない。一方、自由社は、渋沢の生涯を伝記的に紹介し、「論語と算盤」に象徴されるように、単なる実業家ではなく道徳心を大切に

にする修道家・慈善家としての姿まで描いている。歴史から学ぶべきことは、過去の出来事の単なる羅列であってはならない。その時代の出来事、そこに生きた人々の言動、背景、考え、失敗と成功の事例を知り、自らの人生の糧とすることではあるまいか。左下の写真は、時代の変化を知り、日本全体を豊かにするという大いなる目標を持ち、自らが何を為すべきかを考え、即座に行動に移し、成功を収めた渋沢栄一という人物を象徴するものである。

ちなみに、これまで渋沢は何度も紙幣の肖像の候補者に選ばれて来たが、当時は偽造防止のため肖像には髭のある人物を使っていたことから、渋沢を採用することはなかった。しかしその後、偽造防止技術が向上し、ようやく渋沢の肖像が採用されることになったとのことである。（「ウィキペディア」より）



渋沢栄一（1840～1931）
左は洋行前、右は洋行後の写真
（自由社版中学歴史教科書より）

「中学歴史教科書読み比べについて」

千葉県内の中学歴史教科書の採択状況は、左記のとおりです。
教育出版（船橋、習志野、八千代、香取、神崎、多古、東庄）
帝国書院（市川、浦安）
東京書籍（右を除く市町村）

私共は、この大手三社に加え、自由社の併せて四社の歴史教科書を約二年間に亘って読み比べました。その結果、正しい歴史の記述がなされ、子供が日本の国に誇りの持てる歴史教科書は、自由社の教科書であるとの結論に至りました。そして、この結果を踏まえ、県内の中学生の子供を持つ父兄、並びに教育関係者への周知を図るため、この「中学歴史教科書読み比べ」を不定期に発行し、現在千葉県内で採択されている大手三社の歴史教科書の問題点を明らかにしてゆく所存です。（会員一同）

※バックナンバーご希望の方は、オフィシャルサイトへどうぞ。